

振り返りと先見と

(1学期終業式校長挨拶より)

今年度も早や、3か月と2週間が過ぎ、今日1学期終業式となりました。本校は3学期制ですから、数値上は1/3が過ぎたこととなります。

終業式に当たり、この1学期を振り返ってみることは、意義のあることです。みなさんにとってこの1学期はどんな学期だったのでしょうか。是非振り返って頂きたい。

私なりに振り返ってみます。まず、この1学期は動の学期です。

年度当初ということもあり、めまぐるしく動いた4月、あっと思う間もなく。生徒総会、そして運動会、中央支部があって、中間テスト、全県総体、玲瓏祭。部活によっては県体、東北大会、そして、期末テストに進路講演会や各種の模試などなど、本当にめまぐるしい動の学期でした。

運動会は本高生の自主性とパワー、そしてみんなで成功させようという協力の心が見えました。

玲瓏祭は仮装パフォーマンスから始まり、最後の後夜祭・閉祭式まで創造性、挑戦、文化の発信に力を発揮してくれました。

部活動にあっては、先ほどの賞状伝達式でもありましたように、インターハイへ4つの部、全国大会へ1つ、東北大会にも多数の部が出場を果たしました。大変健闘したと思います。

残念な部もあったと思いますが、それでもこれまでの取組は絶対に今後に活かされます。結果は必ず糧になるのだから、是非次につなげてください。

総じて、皆さんの1学期の取組は、年度を一人一人の努力でもって幸先よくスタート出来たという点で上々だったといえます。

さて、1学期は動の学期といいましたが、2学期は動から静へ変化する時期、そして、3学期は静の時期、しかしそれは青く静かに深く、内面から激しく燃えるべき学期です。

そして、不思議なことに一番短い3学期が、心理的には長くて重要な時期です。あなた達は、締めくくりに大切な3学期に向けて、今まさに助走を終えたに過ぎません。どれだけ高く、遠くへ飛び出すかは、まだまだこれからです。差し当たって、大事なものは、明日から始まる夏休みでしょう。

夏休みは、第4の学期と言えるほど重要な学期です。休業ということもあって自己管理が強く問われます。

夏休みは、志、自分の夢がどの程度のものなのかに大いに影響されます。

大事な夏休みを迎えるにあたって、一つお話をしましょう。これは、秋田の先覚者である森川源三郎が、1926(大正15)年、82歳で亡くなる際、遺訓として遺した「三心」というものです。森川さんは、石川理紀之助、齋藤宇一郎とともに秋田県の「農業三大人」と称された郷土の偉人です。

「寝ていて人を起こす事なかれ」で有名な石川理紀之助さんを知ってる人は多いのではないのでしょうか。

さて、彼の三心とは、「発心」「決心」「相続(継続)心」の三つ。「物事を思い立って行おうと決めることも大事だが、それ以上に続けていくことが大切である」。勤勉

で実直な源三郎の人生そのものを表す言葉といえます。

つまり、物事を成すのに3つの心が必要です。まず始めに、

発心：物事を始めようと思いつこと

次に、決心：心を決める，考えを決める

あとは、継続心：こうと決めた以上は，その実現まで絶対に諦めぬ強い意志。

もちろん難しいのは継続心、継続することです。

でも、発心、決心が本物なら大丈夫、継続しないのはこの2つが本物ではなかった、ということ。

まず見つけなさい 発心です。

そして、覚悟を決めよ 決心です。

あとは、その実現に向けて努力を継続すること

一步一步努力を重ねなさい。本当に望むことならどんなことも楽しいものです。夢があってその実現に向けての取組が楽しくないのならそれもまた、やはり本物の決心ではないのです。

本当になりたいものがある、そしてその実現に向けて取り組むなら、それらは全て楽しいものです。苦しいとか困難であるとかはあるけど、嫌だとか憎むようなものではないはずですよ。

発心(物事を始めようと思いつこと)がなかったらまず見つけなさい。

そして、強く決心(心を決める，考えを決める)しなさい。

決心が決まれば後は、継続心，その実現まで絶対に諦めぬ強い意志でがんばり抜くことです。がんばり抜けるものです。

『有志竟成(志ある者は事ついに成る)』ということをお話ししましたが、志が本物の決心から来るものならば、継続することができて事がついに成るということなのです。

夏休みは第4の学期といいました。

大きな変化が見えるのは、長期休業中のことであり、この最も長い夏休みが一番です。「化ける」子が出てくるのもこの夏休みからです。

自分自身をじっくりと見つめ、自分と対峙し、発心・決心を確認、あるいは見つけるべく、あるいは継続心でもって、この夏を頑張ってください。

2学期以降を生かすも殺すも、というよりも、自分の夢に少しでも近づくことができるかどうか、この夏休み次第です。

一皮むけて成長した諸君と会えることを楽しみにしています。

健闘を期待します。

(完)